

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	文学研究科
大項目	4 教育研究組織 (研究科)
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KGI) 研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 総合心理学専攻学校教育学領域の適正な所属について、大学・教育学研究科とともに検討を開始し、2013年度までに一定の合意を得る。	→検討委員会の設置。検討の記録。	C	C	C	C	
2. 前期課程・後期課程ともに優秀な准教授からの任用を促進する。	→准教授の前期課程・後期課程への任用までの年限。准教授でそれぞれの課程に任用された教員の人数。	B	B	B	A	
3. 2010年度以降の昇任人事について、審査期間中(約1ヶ月)、全教員がいつでも業績を見ることができるよう制度化する。	→制度化の記録と実施実績	A	B	B	B	
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	目標に設定した通り、大学および複数の研究科が関係する問題と認識している。本研究科では未だ組織的な検討は開始されていない。2013年度は大学院問題検討委員会で検討を開始することを目標とする。
目標2	2013年4月から1名の准教授が後期課程指導教員に、1名の教員(宗教主事)が大学院博士課程前期課程指導教員に任用された。さらに2名の新任准教授が前期課程指導教員に任用された。2012年度目標の進捗状況報告書に大学院教員、前期課程、後期課程の指導教員への任用基準が明記されている。
目標3	昇任人事に関わる業績開示の制度化は2009年度に定例教授会(2010年1月20日開催)で承認され、教授会記録に記載されている。しかしながら「文学部の人事手続き」には当該教員が所属する専修への事前問い合わせ、昇任の賛否を問う投票に際しての構成員について等、明文化されていない諸点がみられることから手続きの見直しをはかる必要がある。
備考	